

「社会的な見方や考え方と思考力、判断力、表現力等」イメージ（たたき台）

平成28年4月6日
教育課程部会社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ 資料8

※「社会的な見方や考え方」は、小・中・高等学校の各「見方や考え方」を総称する呼称である。

思考力、判断力、表現力等

社会的な見方や考え方をを用いて、社会の在り方や、社会的現象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力①
社会的な見方や考え方をを用いて、社会に見られる課題を把握して、それらの解決に向けて構想する力②
考察したことや構想したことを説明する力、議論する力③④

社会的な見方や考え方 (追究の視点や方法)

公民科

人間と社会の在り方を捉える見方や考え方
人間と社会の在り方を捉える諸概念に着目して社会的現象を見出し

それらの現象を選択・判断の基準となる
考え方と関連付けて

地理歴史科

社会的現象の地理的な見方や考え方

社会的現象の歴史的な見方や考え方

社会科

公民的分野

現代社会を捉える見方や考え方
現代社会を捉える諸概念に着目して社会的現象を見出し

現代の社会生活と関連付けて

地理的分野

社会的現象の地理的な見方や考え方
位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的現象を見出し

地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて

歴史的分野

社会的現象の歴史的な見方や考え方
推移や変化などに着目して社会的現象を見出し

比較して相違や共通性を明確にして原因と結果を関連付けて

小学校

社会的現象の見方や考え方

- ・位置や空間的な広がり
- ・時期や時間の経過
- ・現象相互、人々の立場相互の関係に着目して社会的現象を見出し
- ・現象を比較・分類したり総合したりして(特色)
- ・国民(人々の)生活と関連付けて(意味)

生活科

思考力、表現力の基礎の育成

比較する、分類する、関連付けるなどの思考

伝える、相互交流する、振り返るなどの表現

身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。

生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心を持つ。

したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。

① 考察する力

② 構想する力

③ 説明する力

④ 議論する力

社会との関わりを意識した課題解決的な学習の充実

【高等学校】

【中学校】

【小学校】
(第3～6学年)

【小学校】
(第1、2学年)

幼児教育

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（たたき台）

平成28年4月6日
教育課程部社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料8 補足資料

※ 社会的な見方や考え方は、小・中・高等学校の各「見方や考え方」を総称する呼称であり、社会の在り方や、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連等を考察する際の「追究の視点や方法」である

考えられる追究の視点例		追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	考察、構想した結果、獲得する知識、概念の例
小学校社会	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や空間的広がり ○時期や時間的経過 ○事象相互、立場相互の関係 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように広がっているのだろう ・いつどんな理由で始まったのだろう ・どのような工夫や努力があるのだろう 	<p>◎社会的事象の見方や考え方</p> <p>位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象相互、立場相互の関係、比較・分類したり総合したりして、国民(人々の)生活と関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 社会的事象の特色や意味を多角的に考察する力</p> <p>構想 社会に見られる課題について、自分たちにできることを選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市工場を中心に部品工場が集まり盛んな地域を形成している ・祭りは地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった ・地域の安全は、関係機関の未然防止と緊急対処によって守られている
	<ul style="list-style-type: none"> ○地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件 など ○時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性 など ○工夫、努力、願い、つながり、関わり、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生(共に生きる) など 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように広がっているのだろう ・どのように変わってきたのだろう ・どのように変わってきたのだろう ・なぜ〇〇と〇〇の協力が必要なのだろう 	<p>◎社会的事象の地理的な見方や考え方</p> <p>位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し、地域等の枠組みの中で、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みなどと関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・祭りは地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった ・農作業は機械化により生産効率を向上させてきた ・伝統芸能は技や道具が多くの人々に継承され今に至っている ・政治には国民生活の安定と向上を図る働きがある
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や分布に関わる視点 ○場所に関わる視点 ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 ○空間的相互依存作用に関わる視点 ○地域に関わる視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・それは、どこに位置するだろう ・そこは、どのような場所だろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているだろう ・そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろう ・その地域は、どのような特徴があるだろう 	<p>◎社会的事象の歴史的な見方や考え方</p> <p>推移や変化などに着目して社会的事象を見出し、比較して相違や共通性を明確にして、原因と結果を関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること ・特定の事象は、地球の表面において特定の範囲に広がること ・地球上の各地は、固有の性格があること ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと ・空間的な広がりには、まとまりのある固有の特徴を持つこと ・地域には、期待されるよりよい姿が求められること
	<ul style="list-style-type: none"> ○絶対的、相対的 ○規則性・傾向性、地域差 など ○自然的、社会的 など ○環境依存性、伝統的、改変、保全 など ○一般的共通性、地方的特殊性 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・それは、どこにある、どのように広げる、どのような場所とする、どのような自然の恩恵を求め、どのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、どのような地域となるべきなのだろう。 	<p>◎現代社会を捉える見方や考え方</p> <p>現代社会を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し、それらの事象を現代の社会生活と関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今も世界に広まるいくつかの宗教は、数千年前に古代からの文明地域の都市を中心に起こった ・歴史上の人物の業績や出来事の歴史的な役割を考察する際には、背景となる時代についての様々な視点が大切である。 ・市場経済において個人や人々は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択すること、また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかに関わらず、人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることなどが、市場経済の基本的な考え方である ・合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要である
中学校社会	<ul style="list-style-type: none"> ○年代の基本に関わる視点 ○諸事象の推移や変化に関わる視点 ○諸事象の特色に関わる視点 ○事象相互の関連に関わる視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ(どこで、誰によって)起こったか ・なぜ起こった(何のために行われた)か ・他にどんな選択が可能だったか(背景) ・なぜそのような判断をしたと考えられるか(ねらい) 	<p>◎現代社会を捉える見方や考え方</p> <p>現代社会を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し、それらの事象を現代の社会生活と関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南北朝の争乱や戦国の動乱を経て室町幕府の統一的支配が弱まり、大名による領国支配と民衆による自治的結合が進んだ ・近世は、江戸幕府等の強大な力を基盤に安定した全国支配体制が形成され、産業・通商や町人文化が隆盛をみた時代であった ・歴史上の人物の業績や出来事の歴史的な役割を考察する際には、背景となる時代についての様々な視点が大切である。(具体例:天保の改革の評価については諸説あるが、江戸時代の経済や社会の仕組みの変化に対処するための必要な試みであった) ・市場経済において個人や人々は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択すること、また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかに関わらず、人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることなどが、市場経済の基本的な考え方である ・民主的な社会における法は、国民生活の安定と福祉の向上を目指し、国民の意思のあらわれとして国民の代表によって構成される議会によって制定されるものであり、国や地方公共団体は、国民の自由と権利を侵さないようにそうした法の拘束を受けながら政治を行っている
	<ul style="list-style-type: none"> ○諸事象の推移や変化に関わる視点 ○諸事象の特色に関わる視点 ○事象相互の関連に関わる視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ(どこで、誰によって)起こったか ・前の時代とどのように変わったか ・どのような時代だったか ・なぜ起こった(何のために行われた)か ・どのような影響を及ぼしたか 	<p>◎現代社会を捉える見方や考え方</p> <p>現代社会を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し、それらの事象を現代の社会生活と関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの冷戦の激化は、戦後の日本に対する占領政策や経済復興、国際社会への復帰などに大きな影響を与えた。 ・市場経済において個人や人々は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択すること、また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかに関わらず、人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることなどが、市場経済の基本的な考え方である ・民主的な社会における法は、国民生活の安定と福祉の向上を目指し、国民の意思のあらわれとして国民の代表によって構成される議会によって制定されるものであり、国や地方公共団体は、国民の自由と権利を侵さないようにそうした法の拘束を受けながら政治を行っている ・合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要である ・財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済的、技術的な協力などが大切である
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○現代社会を捉える視点 ○社会に見られる課題の解決を構想する視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちにとってきまりとは何だろうか ・なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか ・民主的な社会生活を営むために、なぜ法に基づく政治が大切なのか ・よりよい決定の仕方とはどのようなものか ・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか ・民主政治を推進するために何が必要か ・世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか 	<p>◎現代社会を捉える見方や考え方</p> <p>現代社会を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し、それらの事象を現代の社会生活と関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境、資源、エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済的、技術的な協力などが大切である
	<ul style="list-style-type: none"> ○対立と合意、効率と公正、個人の尊重、自由、平等、選択、配分、法的安定性、多様性 など ○対立と合意、効率と公正、比較衡量、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、利便性と安全性、国際協調、持続可能性 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちにとってきまりとは何だろうか ・なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか ・民主的な社会生活を営むために、なぜ法に基づく政治が大切なのか ・よりよい決定の仕方とはどのようなものか ・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか ・民主政治を推進するために何が必要か ・世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか 	<p>◎現代社会を捉える見方や考え方</p> <p>現代社会を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し、それらの事象を現代の社会生活と関連付けて</p> <p>↓ 追究の方法</p> <p>考察 社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 現代社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境、資源、エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済的、技術的な協力などが大切である

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（たたき台）

高等学校公民

公共（仮称）

倫理（仮称）

政治経済（仮称）

考えられる追究の視点例

- 人間と社会の在り方を捉える視点
幸福、正義、公正、個人の尊厳、自由、平等、寛容、希少性、機会費用、利便性と安全性、多様性とアイデンティティ など
- 公共的な空間に見られる課題の解決を構想する視点
幸福、正義、公正、協働関係の共時性と通時性、比較衡量、相互承認、適正な手続き、自由・権利と責任・義務、平等、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など

追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例

- ・社会を成立させる背景にあるものは何か
- ・社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる考え方は何か
- ・人間としての在り方生き方について考えていくとはどのようなことか
- ・よりよい集団、社会の在り方とはどのようなものか
- ・政治的主体となるとはどのようなことか
- ・経済的主体となるとはどのようなことか
- ・公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化のために、私たちはどのように関わり、持続可能な社会づくりの主体となればよいか

社会、地理歴史、公民における思考力、判断力

◎人間と社会の在り方を捉える見方や考え方

追究の方法 ↓

- ・人間と社会の在り方を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し
- ・それらの事象を選択・判断の基準となる考え方と関連付けて

考察 → 人間としての在り方生き方、社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想 → 公共的な空間に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて、社会を形成する主体として構想する力

考察、構想した結果、獲得する知識、概念の例

- ・今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、様々な立場や文化等を背景にして社会が成立している
- ・「行為の結果における効用として、個人の幸福とともに、社会全体の幸福を重視する考え方」と「（行為の結果よりも、）行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」があり、両者ともに活用し、自分も他者ともに納得できる解を見出そうと考えていくことが重要である
- ・「自分らしい生き方」を問い、自らの体験や悩みを振り返ることを通じて自らを成長させるとともに、人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うことの両者によってよりよい公共的な空間を作り出していくことが大切である
- ・選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用するとともに、個人を起点として、自立、協働の観点から多様性を尊重して持続可能な地域づくりに向けた役割を担う主体となることが大切である

- 人間としての在り方生き方を捉える視点
善、徳、愛、利己心、幸福、義務、個人の尊厳、公正、寛容、存在、真理、聖、美 など
- 現代の倫理的諸課題の解決を構想する視点
尊重、畏敬、創造、自由、権利、責任、自立、協働、勤労、相互承認、国際協調、持続可能性 など

- ・自らの人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何か、人間とは何か
- ・他者とどう生き、社会でどう生きていけばよいか、良識ある公民としていかに在るべきか、いかに生きるべきか
- ・人間は何を知ることができるのか、なぜ世界が存在するのか、人間はどのような位置づけで存在するのか
- ・哲学や宗教や芸術が何を問い、どのような答えを見出してきたか
- ・自然科学的理論と倫理的理論との違いはどこにあるか、自然とどのように関わり合って生きればよいか。

◎人間としての在り方生き方を捉える見方や考え方

追究の方法 ↓

- ・人間としての在り方生き方を捉える諸概念に着目してそれに関わる事象を見出し
- ・それらの事象を選択・判断の基準となる考え方や哲学、宗教、芸術などに関わる理論と有機的に関連付けて

考察 → 人間としての在り方生き方に関わる事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想 → 現代の倫理的諸課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力

- ・それ自体価値あるいもの求め、正しい行いを選ぶ賢さとそれを実行する意志の強さを身に付けた徳の高い人間を目指し生きる
- ・正しい行いをするために、利己心をもとにする考え方、幸福と利益をできる限り増やすことを重視する考え方、自由に基づき人権を大切にすることを手掛かりとして、自分自身を深く理解する
- ・自由権の保障とともに不利な立場にある人々への配慮も必要であるという考え方が手掛かりとして公平な社会について考え続ける
- ・存在の不思議への驚きから知識への深い懐疑が生じること、正解が定めがたく問うこと自体に意味がある問いがあり、これを問い考え続けることが大切であることに気付く
- ・倫理で考えるのは「べき」であるため、自然科学で考える「ある」とは異なるが、観察した事実を根拠として練り上げられた理論を現実の出来事をさらに観察し修正しながら、判断と理論を調整していく点において相通じる面もある

- 社会を捉える視点
個人の尊厳、効率、公正、自由、平等、希少性、機会費用、選択、配分、分業、交換、利便性と安全性、多様性とアイデンティティ など
- 社会に見られる課題の解決を構想する視点
対立、協調、効率、公正、比較衡量、具体的な妥当性と法的安定性、相互承認、適正な手続き、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など

- ・政治の意義と機能はどのようなものであるか
- ・経済活動の意義はどのようなものであるか
- ・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方とはどのようなものか
- ・グローバル化が進む国際経済にあって、日本経済は今度どのようにあることが望ましいと考えるか
- ・地域社会の発展と住民生活の向上のために、国と地方公共団体の関係の在り方や私たちの関わり方について、どのような選択・判断、合意形成を行うか

◎社会を捉える見方や考え方

追究の方法 ↓

- ・社会の在り方や課題を捉える諸概念に着目して社会的事象を見出し
- ・それらの事象を選択・判断の基準となる考え方や政治、法、経済などに関わる理論と有機的に関連付けて

考察 → 社会的事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力

構想 → 社会に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）、合意形成する力

- ・政治とは広義には、個人あるいは集団の考え方や意見、利害の対立や衝突を調整したり解決したりすることにより、社会の秩序を維持し統合を図る機能を意味している
- ・経済活動は分業と交換に基づき人間生活の維持・向上のために行われるものであり、いずれの社会でも、「何をどれだけ」、「どのような方法で」、「誰のために」生産すべきか、生産された財やサービスをどのように社会の構成員に分配し、いかに消費するかという経済的選択の問題を解決しなければならないものである
- ・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方を考察、追究する際には、現代政治における個人、政党及び圧力団体の行動、住民運動など現実社会の事象を取り上げ、客観的な資料を基に様々な角度から主体的に考察することが必要である
- ・個人の尊厳、基本的人権の尊重を基盤に、理論と現実との相互関連に留意しながら持続可能な地域社会となる在り方を考察、追究することが大切である